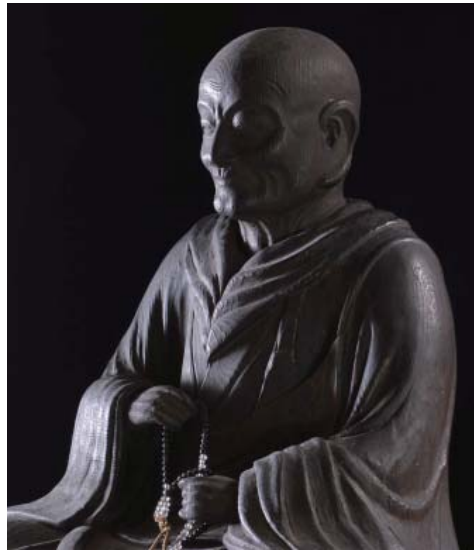


御坊さん

宗祖木像

本徳寺住持 大谷昭仁

年刊 『御坊さん』 第14号
 平成 22年 8月
 発行 亀山本徳寺・本徳寺廟所墓地管理部
 姫路市亀山三三四・TEL 079-235-0242
 編集 亀山本徳寺・真宗文化研究室



本徳寺内道場にご安置の宗祖お木像

宗祖木像

本徳寺住持 大谷昭仁

本来、宗祖木像は廟堂の不可欠な要素であった。大谷廟堂が大谷本願寺へ脱皮し、宗祖木像が真像として安置が適ったのは宗祖五十回忌の時と言われている。その後、蓮如上人によつて創建された山科本願寺において御影堂と阿弥陀堂からなる独自の形態が完成した。中世に教団化したこの真宗本寺は寺と門徒の運命共同体としての性格を持つもので、それまでの天台宗の末寺としての大谷本願寺とは性格をまったく異にするものであった。このような本願寺の社会勢力の増大とともに、ご真影やご本尊は公的な役割を担うことになる。

日本人は崇高で普遍的な抽象理念に生きるの苦手だ、具体的に現実的な身体的行為を通して彼岸を自覚していく。御影堂の御真影像はそのために生まれ、お姿を整えられた。

同様に、阿弥陀堂の本尊も教理的な本尊観のみでは捉えきれない。名号とその功德を現世に示さんために、視覚化された浄土の莊嚴相の中心として阿弥陀仏立像が安置された。このように本尊も真像もその普遍性はきわめて特殊な歴史経験を刻んではじめて現実社会に具現されるものなのである。

かくして中世社会の歴史的展開のなかで、宗門として出現した本願寺は、今に繋がる両堂制を完成させた。その背景にあるのは、あくまで本願寺門徒衆の宗祖をお慕いする思いである。間違いなく門徒はこの木像を生身のご開山として接し、泣き、喜び、浄土への菩提を実感していった。さて、宗祖の木像は各地で製作されるようになるが、有名なものは、安城御影を忠実に模した専修寺に伝わる木像がある。老齢ながらまだ活動期にある宗祖のはつらつとしたおすがたであり、自己に厳しい念仏者としての気迫がはつきりと伝わってくる。

本徳寺にも内道場に宗祖の木像が御安置されている。この木像は、背丈五十一糎、幅五十五糎、深さ四十糎の座像で、現存する宗祖像のなかでは中型のものである。本徳寺の宗祖像はその容貌から推察して、安城御影に比べ、幾分円熟味を感じさせる。あいかわらずの眉間の縦しわは、自己の内面を見通せたものだけがみせるあの罪業感の現れであろう。しかし、その罪業を背負つてそのままに生きる、気負いのない、落ち着きが見る人の心底に自然法爾の境界を想像させる。

本徳寺の木像がいかなる目的でいつ製作されたものか定かではない。しかし、尊像台座裏書によれば、一七九四年に嘴崎村明源寺並びに門徒中に対し宗祖尊像拝見を許諾している。従つてこれ以前のものであることが知れる。当時の門徒衆の間で開帳が行われたことから、御真影信仰は播州でも盛んであったようである。一九一八年に濱田常蔵氏によつて木像の厨子が製作され、さらに一九三四年に内道場が本願寺・真実閣の様式を踏襲して修築されて以来、内陣壇上右に安置されている。

木像は傷みがひどくなったため、一九九七年から三年をかけて、京都美術院で解体修理がほどこされた。台座部は宇佐美松鶴堂が復元を果たした。

その際、木像の内部に胎内仏が発見された。幅二糎・丈十糎程の阿弥陀仏木像である。ここで思い当たるのは親鸞聖人御絵伝の蓮位夢想である。この段には、聖徳太子が阿弥陀仏の化身となった親鸞聖人を礼拝するようすを夢中で蓮位坊が観得する場面があり、当時の人々が阿弥陀仏の化身として親鸞聖人を尊崇していたことをうかがい知ることが出来る。

しかし、こういう感覚は現代人にはわかりにくい。「夢」か「現」か「幻」か：の心情は、「夢」と「現」を虚と実で二分する近代的分析法を身につけた知性には解説不可能である。しかし、前近代の感性は、「夢」も「現」も「幻」も、リアルな事として感得した。その後で「理」と「情」が意味づけをする。実際、現代心理学では、「夢」と「幻」と「現」は密接に関連する心的現象と捉える。そこでは、「現」は、「夢」と「幻」の自覚されたほんの一部でしかない。

しかるに現代人が「現」のみに価値を認めたがるのはなぜか。それは近代的自我が客観的に理解して操作することが出来る唯一の対象だからだ。従つて、上述のような化身観を語る際には十分な配慮が必要である。未だに近代教の後遺症は根強く深いことを痛感する。

最後に、この本徳寺所蔵の宗祖木像とご絵伝（文化財）は来年から始まる親鸞聖人大遠忌に先駆けて各地で開かれた本願寺展に出展された。本願寺展は広島を皮切りに徳島、金沢、名古屋、札幌の美術館で開催され、四十二万人の来館者があった。

左の写真は宗祖木像の体内に納められた阿弥陀仏である。幅二糎・丈十糎程の小型で阿弥陀仏の形相が微細に彫刻されている。

下の写真は宗祖木像を安置してある内道場である。幅半間の基壇が置かれ、その上に左に蓮如上人木像、中央に本尊としての阿弥陀仏立像、右の厨子に親鸞聖人の木像が一例に御安置されている。

